非周期的な構造の 高空間分解イメージング

有馬孝尚 東大新領域/理研放射光

Outline

・周期的でないことが本質的な問題
・物性物理で欲しい高空間分解能イメージ
・コヒーレントなX線の役割

Outline

•周期的でないことが本質的な問題

•物性物理で欲しい高空間分解能イメージ •コヒーレントなX線の役割

固体物性の人以外には「当たり前」でしょうが...



格子欠陥、不純物、界面状態、表面状態





cf 半導体: 少数の軽い電子/正孔

強く相互作用する多数の電子

多自由度(電荷、軌道、スピン)および格子の絡み合い
 波動の持つ非局所性・剛性・敏感性

高温超伝導、超巨大磁気抵抗、マルチフェロイク、量子スピンホール効果など

エネルギーの高効率変換
エネルギー消費を伴わない量子状態の制御などの未踏かつ革新的な機能

一部実用化:高温超伝導、巨大磁気抵抗、トンネル磁気抵抗…
 研究開発段階:(逆)スピンホール効果、電流誘起磁壁移動…
 学理探究段階:マルチフェロイク、磁気冷却、重い電子系…

非周期性が本質的な問題

複数の秩序相の競合

超伝導相vs. 電荷ストライプ相 (銅酸化物超伝導体) 電荷軌道秩序相vs. 強磁性金属相 (マンガン酸化物系) らせん磁性相vs. コリニア磁性相 (磁性強誘電体)

Ferroicsに伴う分域構造

強磁性体 強誘電体 強弾性体 軌道秩序系 無機キラル系

トポロジカルな超構造

超伝導体の混合状態(渦糸の配列、内部構造) 低次元系のソリトン らせん磁性体のSkyrmion格子





Pr_{1-x}Ca_{1+x}MnO₄(単層層状Mn酸化物)の電荷・ 軌道整列を電子回折暗視野像で見た例

X.Z. Yu, et al.. Phys. Rev. B 75, (2007) 174441

白いところ(絶縁体)と黒いところ(導電体)の配置次第で導電性が変化する

フェロイク







(a) 強磁性



(c) 強弾性



マルチフェロイク



例: Ferroic のドメイン

強誘電ドメインと反強磁性ドメイン の結合: YMnO₃の光高調波発生 イメージング

M. Fiebig et al., Nature 419, 818 (2002)



トポロジカル欠陥としての超構造

Solitons



Skyrmions

Vortices

S. Mühlbauer et al., Science 323, 915 (2009).



位相欠陥構造→物質機能

位相欠陥がもたらす物性機能の例



X. Z. Yu et al. Nature (2010)

uzuwu et ul. 1 liyb. 1007 Lett (2011)

Outline

- •周期的でないことが本質的な問題
- •物性物理で欲しい高空間分解能イメージ
- ・コヒーレントなX線の役割

放射光を用いた構造研究の目標

▶周期系の電子密度分布の高精度解析

•価電子密度分布

•電子スピン密度分布

•電子軌道運動量分布

▶非周期系

•電荷/軌道/スピンの超構造の解析

•表面、界面の構造解析

▶時間分解

Structural Transition in CsCuCl₃

 $T > T_{\rm s} \sim 420 {\rm K}$

 $T < T_s$ Distorted triangular lattice with chiral stacking

Conventional triangular lattice

(a) Right-handed $(P6_122)$ (

(b) Left-handed (P6₅22)



Chiral-domain imaging itself is of great significance.

ダイヤモンド移相子による偏光制御



Circularly Polarized X-ray Diffraction



BL19LXU

Forbidden reflections (0 0 6n-2) and (0 0 6n+2) at Cu K edge show strong circular-polarization dependence, as predicted by Dmitrienko. The flipping ratio in a P6₅22 crystal is opposite to that in a P6₁22 crystal.





Domain size: 40μ m~80μm



LuFe₂O₄

Magnetic Switching of Charge-order (polar) domain



Near-future Plan

Clamping of Charge and Spin Domains

Field Effect





Resonant X-ray Scattering indicates $J_{eff}=1/2$ states.



Exotic Spin-orbit Coupled State in Ir⁴⁺

 $<S_z>=1/6, <L_z>=2/3; L/S=4$



Fractional Charge, Helical Edge Mode, Quantum Spin Hall Effect

Outline

・周期的でないことが本質的な問題 ・物性物理で欲しい高空間分解能イメージ ・コヒーレントなX線の役割

方法論について



干渉性がよいほど遠くのスリットと干渉する



位相問題の解決

円偏光X線ホログラフィによる磁化イメージング

S. Eisebitt et al., Nature 432, 885 (2004).



撮像領域:1.5μm 参照用孔:0.1μm



参照ビームは使わない。 試料とビームの位置関係をずらしながら、 回折パターンを複数記録して数値的に位相を求める

空間分解能:0.05μm

J. M. Rodenburg et al., PRL 98, 034801 (2007)

回折イメージング

空間的に孤立しているものならば、位相問題が発生せず回折イメージングができる



角度を変えながら複数枚の回折 像を測定すれば、三次元イメージ ングも可能



空間分解能:15nm

A. Barty et al., PRL 101 055501 (2008).



より高い空間分解能の 様々なイメージング



W. J. Huang et al., Nature Phys. 5, 129 (2009)

結論、および、新光源に期待すること

- 物質科学の大きな潮流の一つに、非周期性への取り組みがある
- 空間コヒーレンスを利用した種々のイメージング が可能に。
- X線の磁気散乱+イメージングで新たな磁性研 究も可能に。
- ・光励起初期過程の空間的な非一様性まで観測できれば、いいなあ…